

## DESA004 $\alpha$ 地理座標

地理座標は、以下のとおりとする。

### 1 地理座標

緯度と経度のデータは別データ項目で持ち、10進表記で小数点以下6桁とする。

緯度 99.999999

経度 999.999999

上記の小数点以下の桁数は一般の行政目的の場合である。

測量データ等、異なる精度でデータ連携する必要がある場合は、本標準の対象とならない。

### 2 解説

GPSで採用している世界測地系(WGS84)を使用する。また、表記は10進数表記とする

国内外のオープンデータで広くWGS84が使われており、電子国土基本図で参照されるJGD 2011, TP/(B,L)が参照する世界測地系(ITRF)とほぼ同じとなっているため、WGS84を使うこととする。

*GPSで採用しているWGS84系は過去2回の大きな改訂を経て測地成果2000の算出基準となっているITRF系に接近し、現在両者の変換パラメータは1cm以下とされています。このため、両者は実用上同一と見なして差し支えないため、変換の必要はありません。*

*国土地理院Webサイトより (<http://www.gsi.go.jp/LAW/G2000-g2000faq-1.htm>)*

また、小数点以下の桁数は6桁とするのは、一般に6桁が使われることが多いことと、10cm未満(0.000001度は緯度30度で9.64cm、緯度45度で7.87cm)で日常的な仕様では十分な制度を持っているためである。(電子国土基本図では測量に使うため9桁を用いている)

ISO 6709では、緯度経度を±で表し、高度と参照系を以下のように表記することが可能であるが、緯度経度及び参照系は別データで記録することを推奨する。

+35.675529+139.751420CRSWGWS\_84/

附属文書〇〇〇号

地理座標は、地震や地殻変動等で変化することがあるので、測定時期もあわせて管理することが望ましい。